街路樹の剪定について

（受付日：令和８年９月１４日）

Ｑ　未来に向けて美しい街路樹の景観を維持・継承していくため、今ある木を大切に育て、過度な伐採は控えてほしい。

Ａ　街路樹は、街に潤いを与え、真夏の日差しを和らげるなど、快適な道路空間をつくるうえで大切な役割を担っています。本市でも、戦後の復興や脱公害を目指して木を植え続け、緑豊かな都市を築いてきました。

その一方で、大きく育った街路樹が信号や標識を隠すほか、根の隆起によって舗装を押し上げて歩行者の転倒事故につながるケースも起きています。また、近年の猛暑や台風の大型化などにより木にとって厳しい環境が進み、突然の枝枯れや倒木が全国および本市で発生しています。

このことから市では、先人から受け継いだ大切な緑を未来へ残すため、単なる緑量の維持から樹形や樹勢の回復など、質的向上に樹木管理方針を改めた、「宇部市樹木管理指針」を令和５年６月に新たに策定しました。

本指針では、今ある木を保全することを原則としながらも、安全な通行を確保するために高木を伐採し低木等へ見直すなど、安全性の高い道路環境づくりを進めています。

この指針を踏まえ、沿線住民の道路清掃のご負担にも配慮しつつ、安心安全で適切に管理された緑が映える都市を創出し、緑と花と彫刻が調和する宇部市を目指しています。

都市政策部　公園緑地課